

# 圏谷(カール)・氷食による岩壁

## ○圏谷(けんこく)(カール)

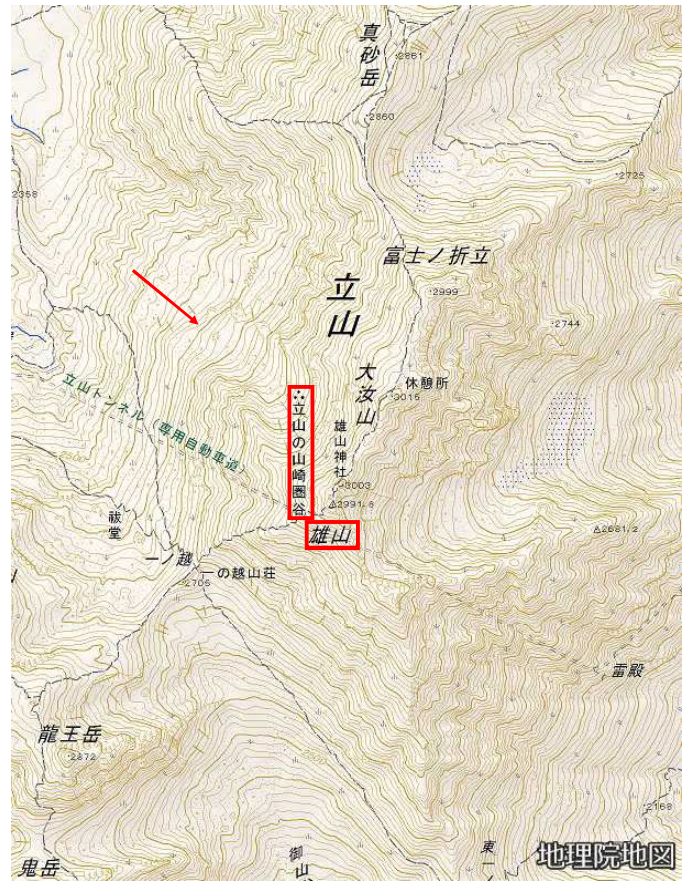
急な谷壁で囲まれた、半円形ないし半楕円形の平面形を持つ谷で、典型的なカールは肱掛椅子のような形態を示し、三方を急峻なカール壁に囲まれ、平坦か、ときには上流側へ逆傾斜したカール底を持ちます。

## ・立山の山崎圏谷

立山の雄山北西山腹に見られる、幅約400m・長さ約600mの圏谷です。明治38年(1905)、地理学者山崎直方(やまさきなおまさ)博士により日本で初めて発見され、日本に氷河時代が存在したことが証明されました。



山崎圏谷3D空中写真



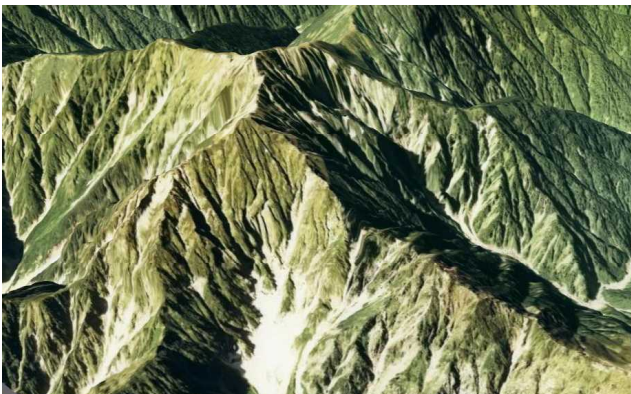
→ 3D空中写真撮影方向

## ○氷食(ひょうしょく)による岩壁

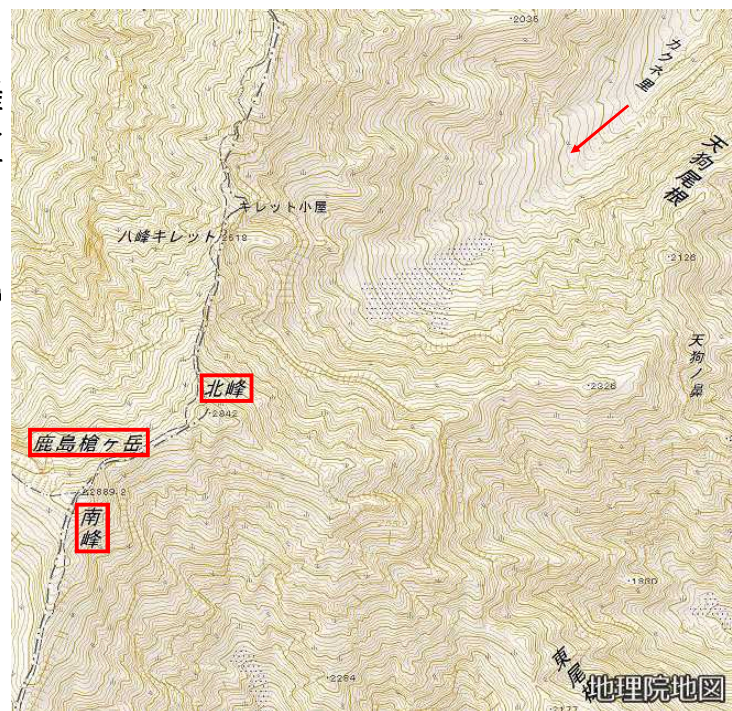
氷河による浸食作用によって形成された岩壁で、氷食擦痕を残すことがあります。

## ・鹿島槍ヶ岳(かしまやりがたけ)

鹿島槍ヶ岳は、富山県黒部市、中新川郡立山町および長野県大町市に跨る後立山連峰(飛騨山脈)の中央部に屹立する連峰の盟主です。山頂は南峰(標高2,889.2 m)と北峰(標高2,842 m)からなる双耳峰で、吊尾根と呼ばれるなだらかな稜線で繋がっています。



鹿島槍ヶ岳北峰の北壁3D空中写真



← 3D空中写真撮影方向



# 非対称山稜

## ○非対称山稜(ひたいしょうさんりょう)

山稜を境に、左右両側の斜面勾配が著しく異なるものをいいます。また、大起伏山地の山稜部分において、両側の斜面勾配が比較的広い範囲にわたって非対称となっている場合をいいます。

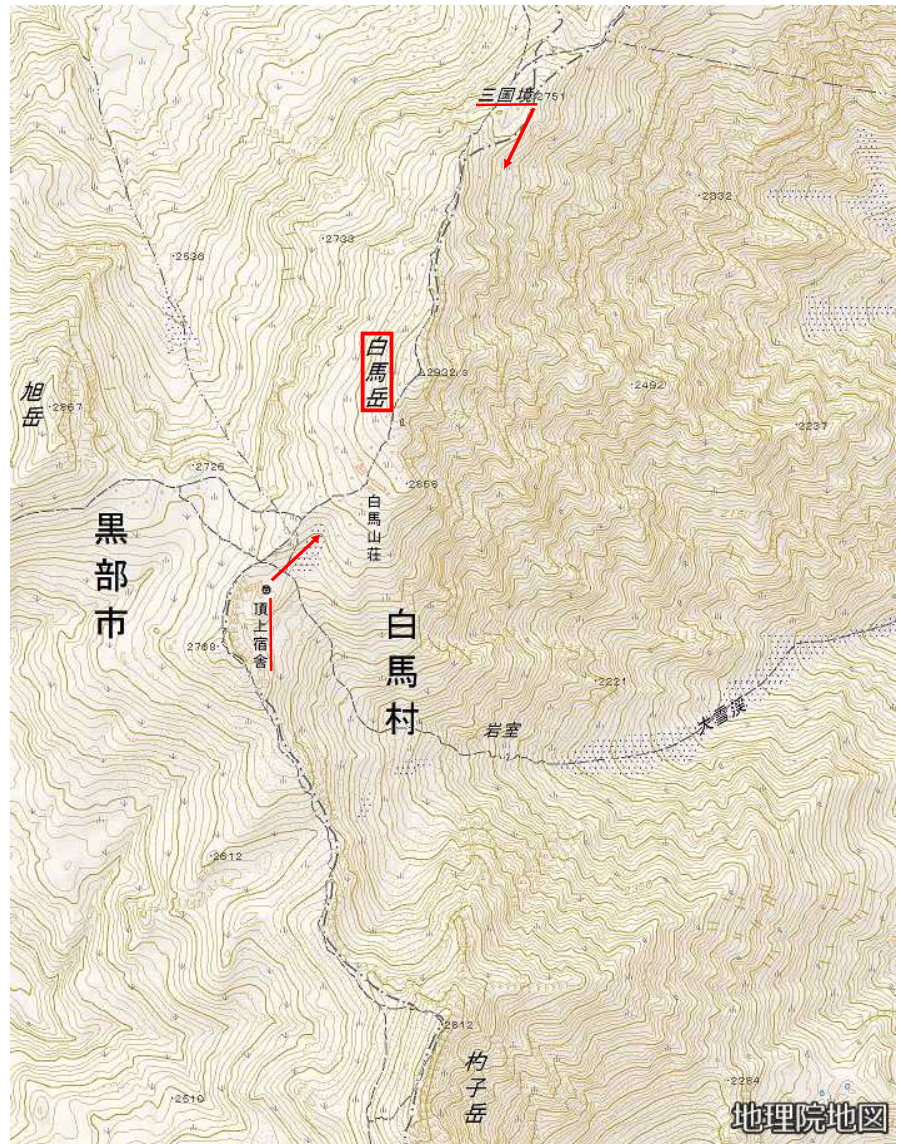
### ・白馬岳(しろうまだけ)

白馬岳は長野・富山県境にまたがり、飛騨山脈北部の後立山連峰に位置する標高2,932.3 mの山です。

槍ヶ岳(やりがたけ)や穂高岳(ほたかだけ)とともに北アルプスではもっとも人気のある山のひとつです。

南北に伸びる稜線の両側の傾斜が著しく異なる非対称山稜が発達している特徴的な山容を持ち、東側は急崖(きゅうがい)をなして中央構造線に臨み、西側は比較的緩やかな傾斜で黒部峡谷に至ります。

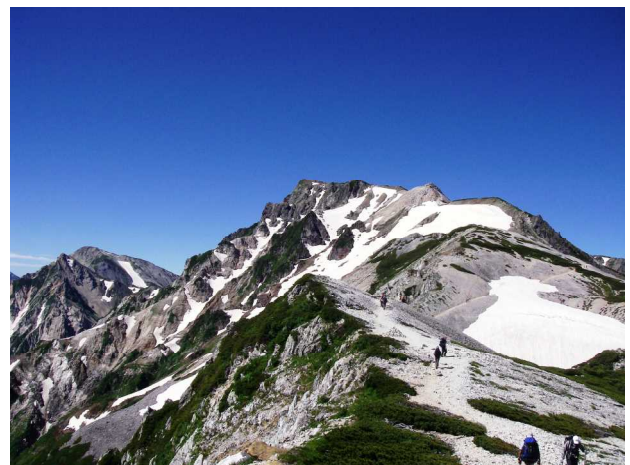
日本三大雪渓の一つ白馬大雪渓は、登山者に人気のあるコースの一つです。



→ 写真の撮影方向



頂上宿舎付近から白馬岳山頂を望む  
(写真出典：国土地理院職員)



三国境付近から白馬岳山頂を望む  
(写真出典：国土地理院職員)



# 高層湿原・池塘

## ○高層湿原(こうそうしつげん)

高層湿原は、寒冷多湿の地域に生息するミスゴケによって形成される湿地草原で、水分の供給は雨水だけです。貧栄養・強酸性のミスゴケ泥炭上にはヒメシャクナゲ・ツルコケモモ等の丈の低い木が、その間の帯水層にはヤチスゲ・ホロムイソウ等の草本がはえます。

## ○池塘(ちとう)

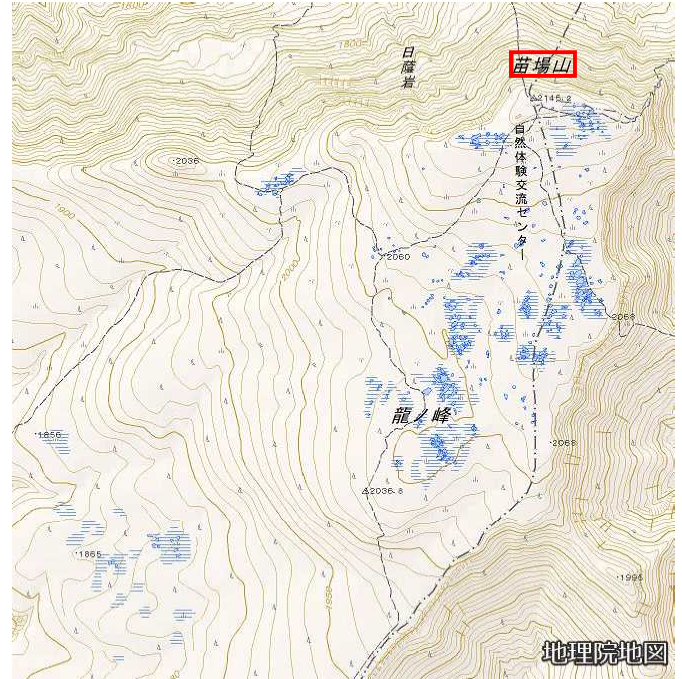
池塘は、高位泥炭地の中にある小湖沼、岸の崖は直立しており、最深部は池のほぼ中心にあります。

## ・苗場山(なえばさん)

苗場山は新潟県南部、長野県北東部の県境にまたがる標高2,145.2mのどっしりとした量感のある雄大な山です。

苗場山の山名は、山頂から南西に広がる湿地帯に多数の池塘が点在し、これが田んぼに例えられたことに由来すると言われて

います。この平坦で約700ヘクタールに及ぶ大湿原では、コバイケイソウ、チングルマ、ワタスゲなどの高山植物が心を和ませてくれます。



苗場山高層湿原と池塘

(写真出典：長野市 飯塚英春氏)



池塘

(写真出典：長野市 飯塚英春氏)



(写真出典：長野市 飯塚英春氏)

コバイケイソウ  
日本海側の多雪地帯に多く、雪田周辺などや湿った場所に群落をつくることが多く、初夏の山を代表する花の一つです。



(写真出典：長野市 飯塚英春氏)

チングルマ

和名は実に生えた羽毛状の毛が輪状に並び姿が、子供が遊ぶ風車(かざぐるま)に見えたことから稚児車(ちごぐるま)によることにあります。花、実、紅葉ともに鮮やかで、高山植物を代表する種です。

コバイケイソウ、チングルマの説明：「栄村HP引用」



# 岩峰と平頂峰

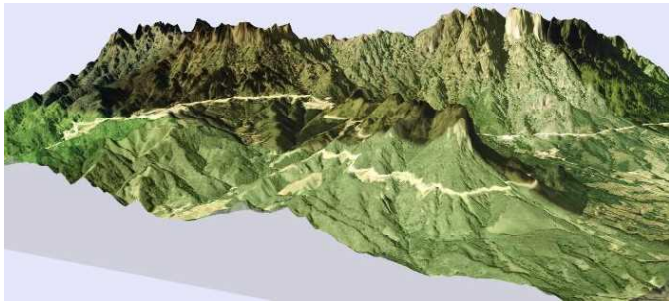
## ○岩峰(がんぼう)

基盤岩がむき出しになっている峰あるいは山頂及びそれらが集中して複数あるもの。植生がほとんどつかず、遠方から眺望できるため目立つ存在となります。

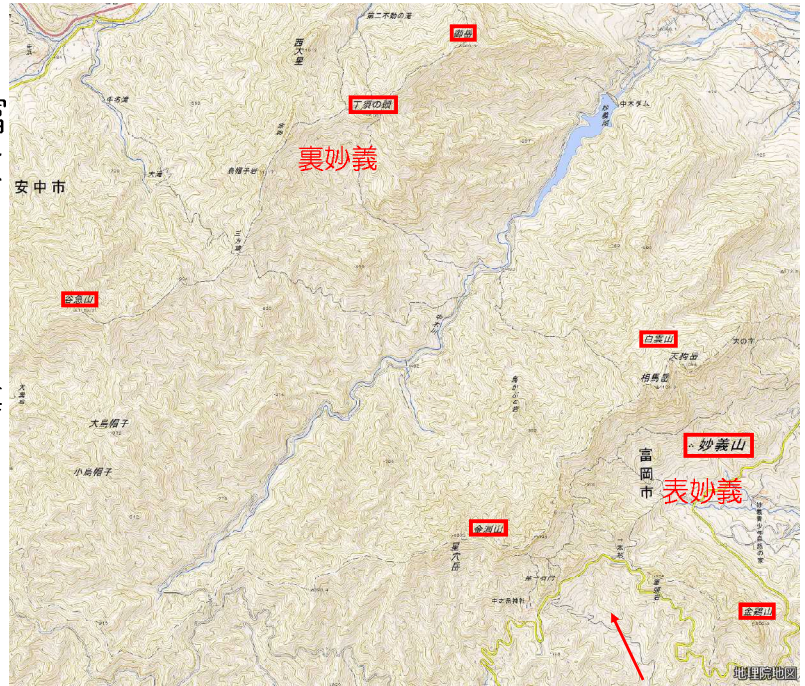
## ・妙義山(みょうぎさん)

妙義山は、群馬県甘楽郡下仁田町・富岡市・安中市の境界に位置する日本三大奇景の一つで荒々しい岩肌が創り出す自然景観の美しさが特徴の岩峰です。

妙義山は、いくつもの峰々の総称で、金洞山、白雲山、金鶏山を通称「表妙義」と言い、谷急山、丁須の頭、御岳等を通称「裏妙義」と呼んでいます。



表妙義3D空中写真



← 3D空中写真撮影方向

妙義山の最高峰は白雲山（相馬岳）で、標高1,104mです。

## ○平頂峰(へいちょうほう)

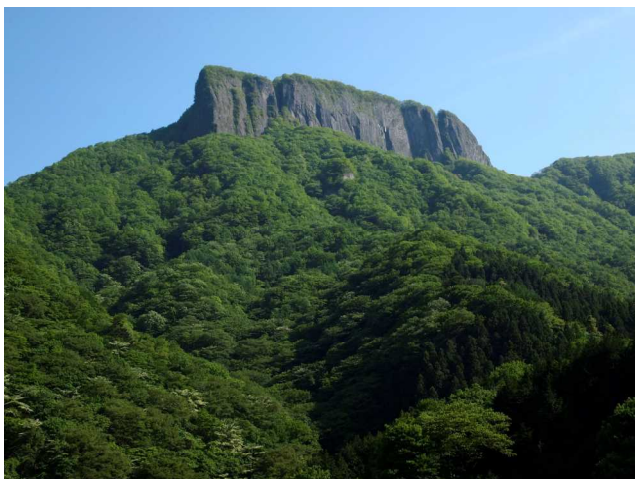
平頂峰とは、山や尾根の頂部が小起伏の平坦地形であるものをいいます。

## ・荒船山(あらふねやま)

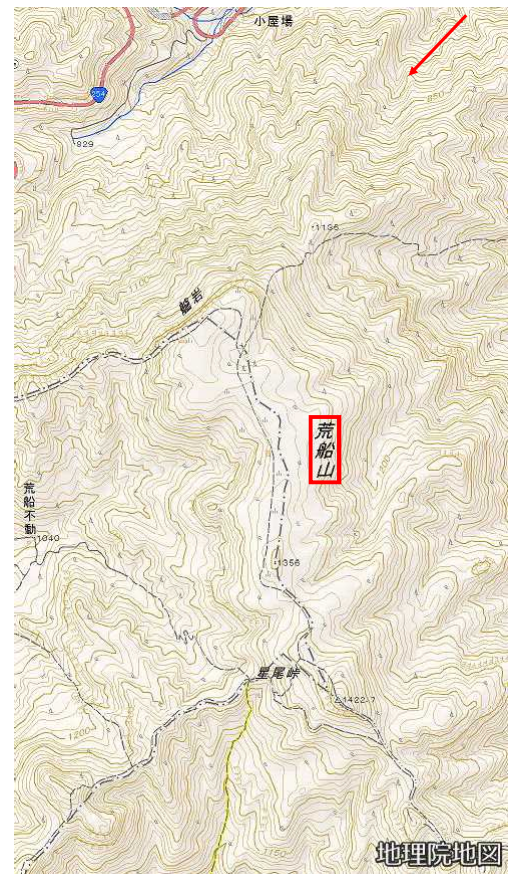
荒船山は群馬県甘楽郡下仁田町と長野県佐久市の県境に跨る標高1,422.7mの山です。南北約2km、東西約400mの安山岩でできた台地は、200m弱の垂直な絶壁を持ち、圧倒的な景観を見せます。

平坦な頂上部と切り立った崖のある山容が、荒波を割って進む船を思わせることから、その名が付けられたといわれています。

荒船山



(写真出典：下仁田町)



← 写真の撮影方向



# 崩壊地

## ○崩壊地(ほうかいち)

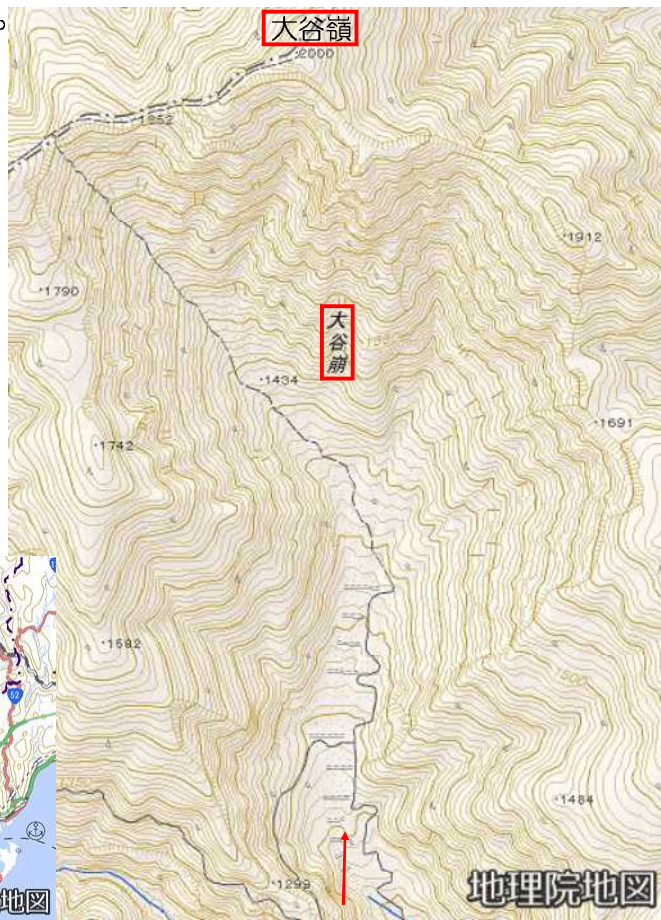
地すべり・山くずれ・雪崩などによって崩壊したところ。崩壊土砂の抜け落ちた上部だけを指して崩壊地という場合が多いです。

## ・大谷崩(おおやくずれ)

大谷崩は、静岡市葵区の安倍川の奥の大谷嶺(おおやれい)の南斜面にあります。

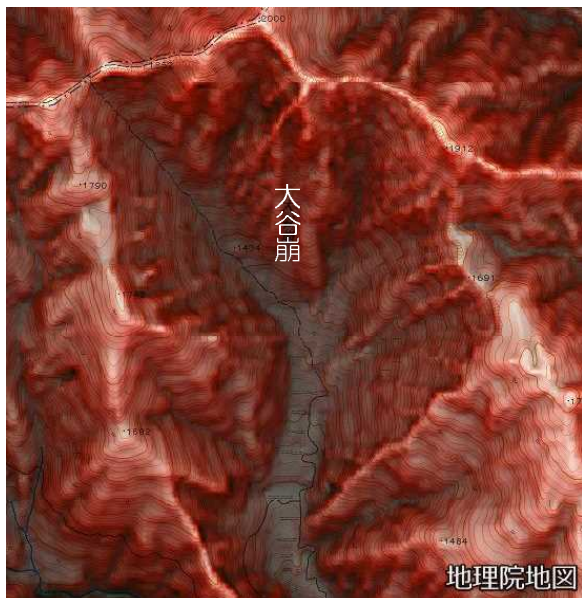
大谷崩の面積は約1.8km<sup>2</sup>、高度差800mであり、これまでに崩れた土砂量は約1億2000万m<sup>3</sup>と推定されています。

古文書の記載内容から現在見られるような大崩壊地となった年代は宝永4年(1707年)10月の宝永地震(M8.4)と言われています。「静岡河川事務所HP引用」



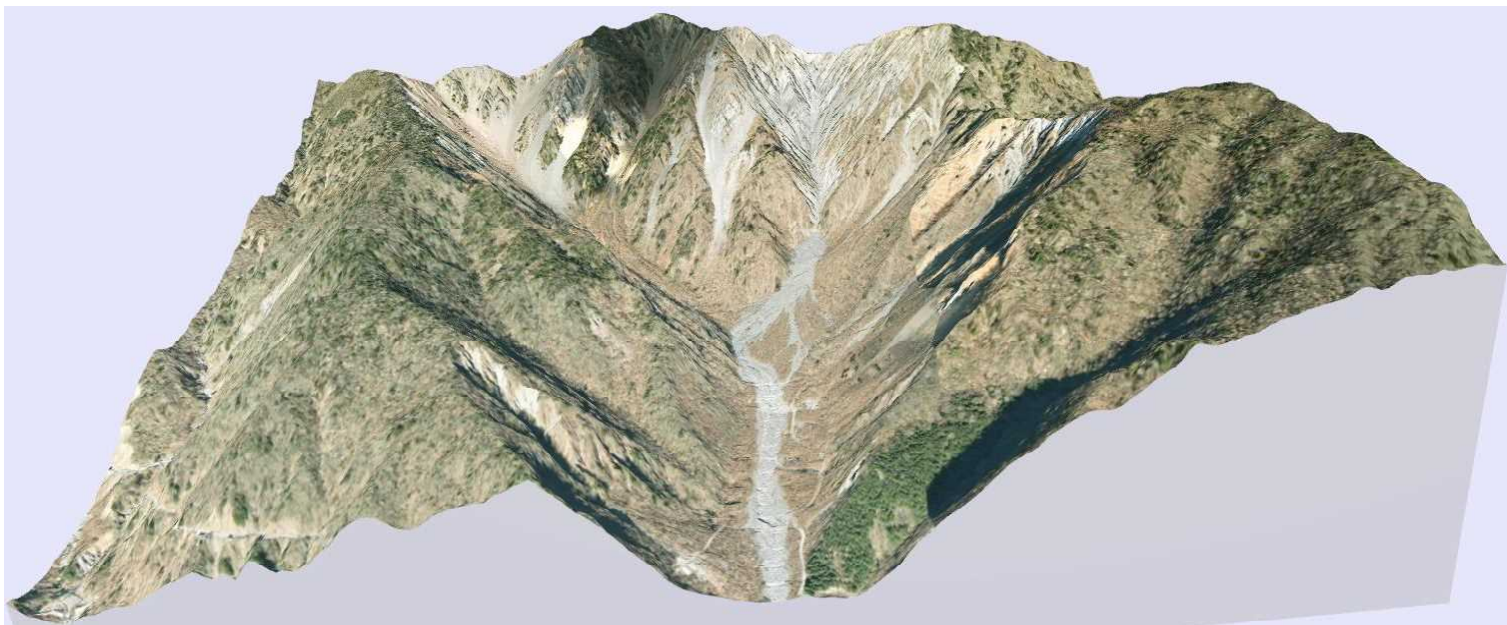
位置図(赤丸印)

→ 3D空中写真撮影方向



赤色立体地図はアジア航測株式会社の特許(第3670274号等)を使用して作成

大谷崩は、安政5年(1858年)に富山県で起きた鳶山崩れ(とんびやまくずれ)、明治44年(1911年)に長野県で起きた稗田山崩れ(ひえだやまくずれ)とともに、日本三大崩れのひとつとされています。



大谷崩南側から3D空中写真



# 峡谷

## ○峡谷(きょうこく)

峡谷とは、山間部を流れる溪流河川が作る谷や溪（侵食による河谷）などの総称で、深く切り立った急崖からなる幅の狭い谷のことです。

両岸の谷壁斜面は垂直又はこれに近い急傾斜で、隆起運動の激しい地域では、谷が広がるより早く下刻（河川の水が川底を侵食する作用）が進んだ場合に形成されます。

## ・黒部峡谷(くろべきょうこく)

富山県東部、黒部川の中ほどにある宇奈月温泉から上流に向かう峡谷です。黒部川が飛騨山脈を西側の立山連峰と東の後立山連峰とに二分して北に流れ、黒部湖より上流を上廊下、下流を下廊下と呼ぶ花崗岩の断崖です。



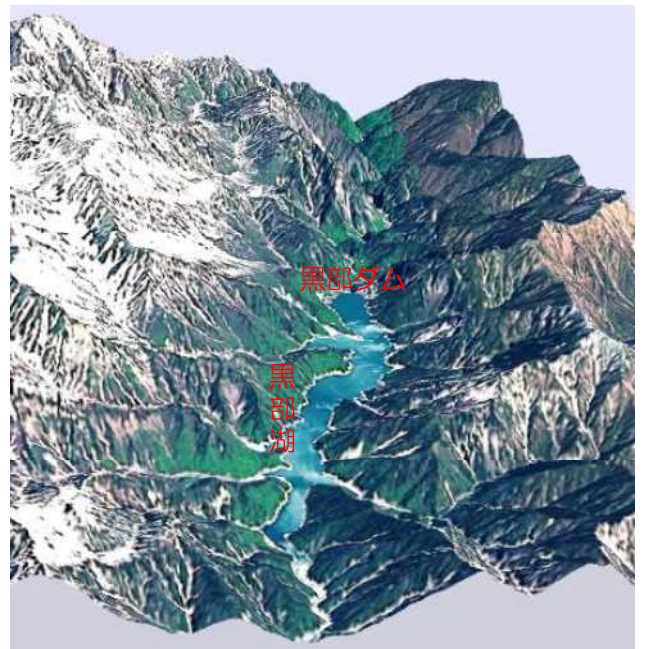
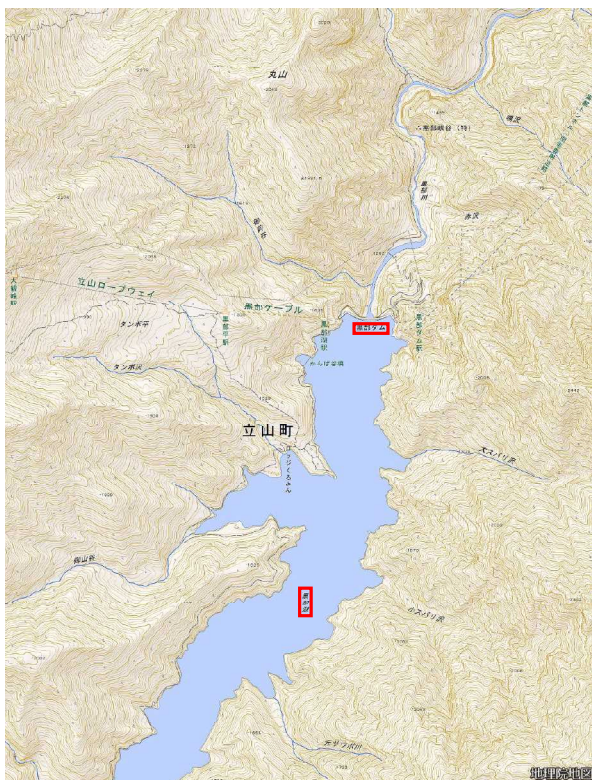
下廊下 (写真出典：黒部市)



その山頂と谷底の標高差は2,000mに達し、下廊下には十字峡・S字峡などの雄大な峡谷が連なり、日本で最も深い峡谷の一つとなっています。

黒部といえば、V字の黒部峡谷を縫うように走る小さなトロッコ電車（黒部峡谷鉄道）がよく知られています。

2015年に開通した北陸新幹線の黒部宇奈月温泉駅の開設でアクセスが楽になり、多くの人々が訪れにぎわっています。



黒部ダムと黒部湖を南側から3D空中写真



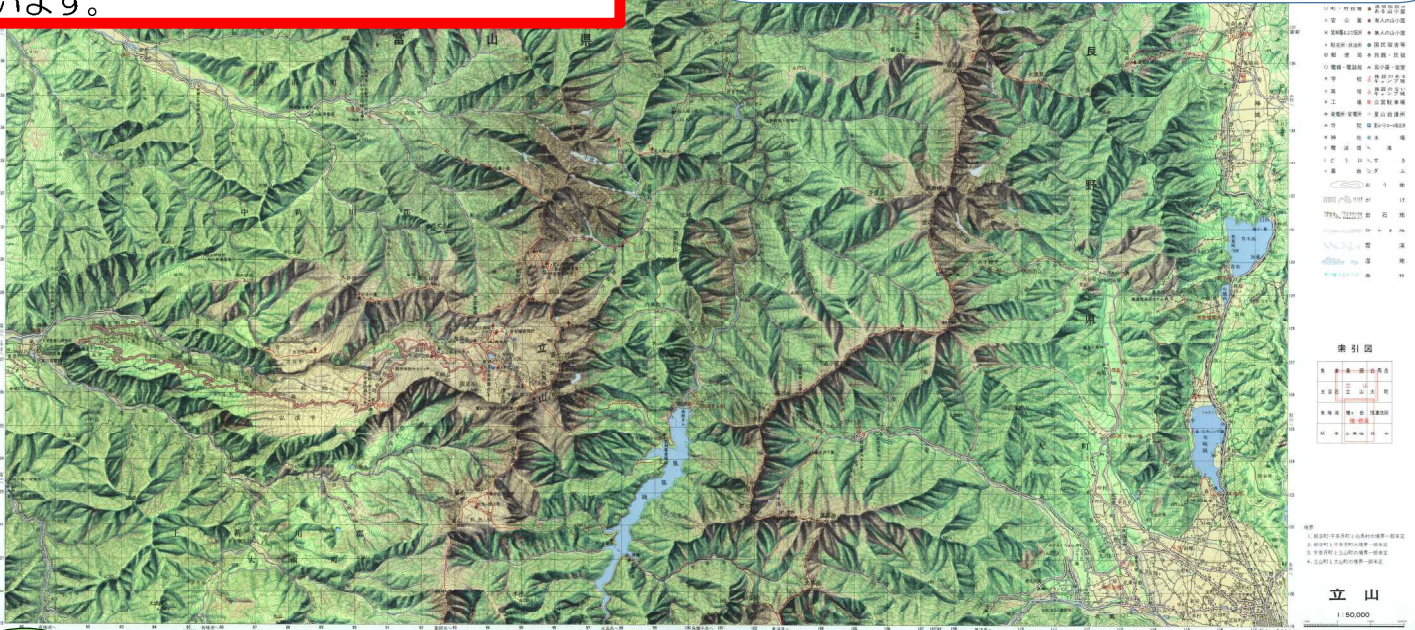
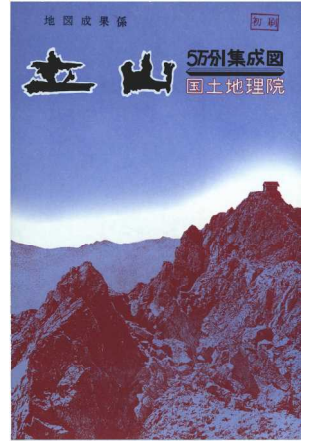
# 過去に刊行されていた 立山 5万分1集成図（昭和55年6月刊行）

おもてめん  
**表面は！**

たて939mm×よこ636mmのサイズの両面に印刷された**5万分1集成図**【立山】です。  
表面には、中部山岳国立公園のうち立山地区を対象に、当時の**5万分1地形図**「立山」「黒部」「白馬岳」等の一部を**集成**し集成図として山岳地域を一枚で表示したものとなっています。

しゅうせいす  
**集成図**って何？

ちよめいさんかくかんこうち  
**著名な山岳や観光地** あるいは、**大都市周辺の地形図**をつなぎ合わせ一枚にまとめた図を**集成図**と呼んでいます



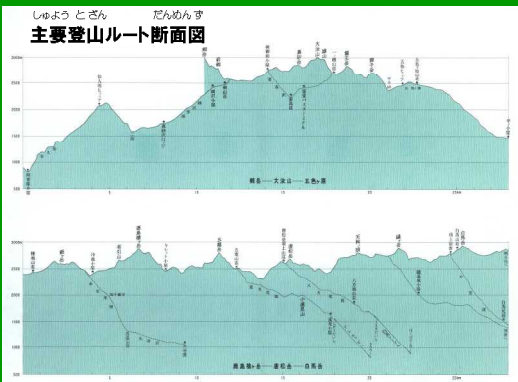
うらめん  
**裏面にも  
情報が  
いっぱい！**



むろどうしやうへん けいけんず  
**室堂周辺の景観を縮尺1万分1で示したもので、各種施設や自然遊歩道、植生分布及び山々の景観断面で囲み、各々の山と対照できるよう表示。**



ちゅうぶさんかくくわつこうえん ぜんいきがいはんず  
**20万分1地図【地域概念図】には、中部山岳国立公園の全域と、5万分1集成図「立山」及び「槍・穂高」の範囲等を表示。**



**5万分1地形図からゆるやかなところ、急なところなどの程度かを読み取ったもので、参考のための代表的な登山ルートの例として表示。**

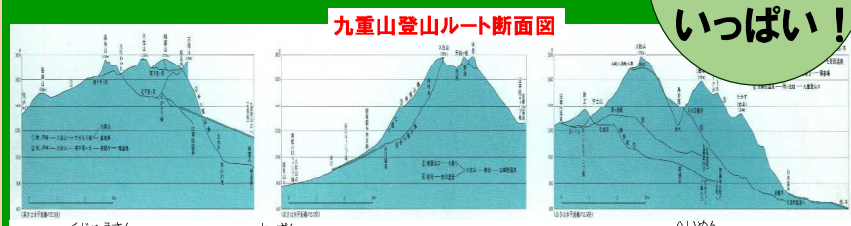
**お知らせ**

すでに刊行廃止となっていますが、「情報サービス館」で閲覧できます。また謄本交付も行っています。



# 過去に刊行されていた

## 阿蘇・九重 5万分1集成図 (昭和53年3月刊行)

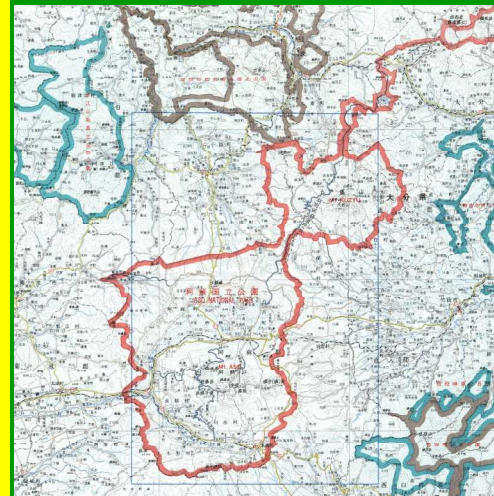


九重山登山ルート断面図  
九重山の代表的な登山ルート[昭和53年時点]を対象として、平面(水平)縮尺5万分1、垂直縮尺(高さ)平面縮尺の2.5倍で表現してあります。

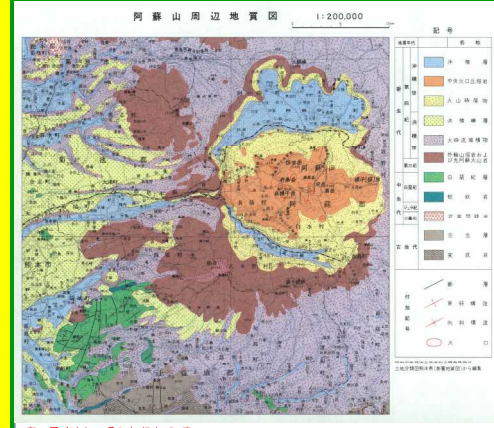
裏面にも情報がいっぱい!

表面は!

たて939mm×よこ636mmのサイズに印刷された5万分1集成図【阿蘇・九重】です。阿蘇国立公園(現在は阿蘇くじゅう国立公園)を対象に、当時の5万分1地形図「宮原」「阿蘇山」の全域、「日田」「久住」等の一部を集成し集成図として、山岳地域を一枚で表示したものとなっています。



20万分1地図【地域概念図】には、本図の範囲と、国立公園・国定公園・県立自然公園や国道・有料道路を表示してあります



阿蘇山周辺地質図

お知らせ  
すでに刊行廃止となっていますが、「情報サービス館」で閲覧できます。また贈妙本交付も行っています。